

不倫人妻調教物語

杉原京子編(5)



不倫人妻調教物語



杉原京子編(5)



英輔と京子

英輔と京子は結婚当初から、性的営みはそれほど濃密でも積極的でもなかった。英輔は50代になり、勃起を持続させることが難しくなっていた。まだ30代の京子を満足させることができていないことを自覚し、それを後ろめたく感じ、いつそう欲情を抑えることになっていた。そうした負い目から、京子に生活の不便は感じさせないようにしようとしていた。だが、それによって京子が刺激の少ない日々につまらないと感じるようになっていたのは、皮肉な結果だった。英輔と京子の日常は、どこか遠慮がちな、腫れ物にさわるような状態であった。普段の京子は控えめな性格で、本当の自分を見せるようなことはしないタイプの人間だった。見せることを怖いと思う部分もあった。英輔は、そんな京子と夫婦であっても、深く結びついていると感じられなかった。そして、自分も京子に対して素の自分を見せることがなくなっていた。京子がM女で、自分の情欲を隠すことなく見せてくるまでは……

解説の視点

不倫がばれたと
告げられた速水は、
当初、焦りを見せた。



しかし、英輔が
寝取られ願望の
性癖の持ち主であり、



速水とのプレイを
望んでいると
告げられると安心し、
提案を受け入れた。

京子は、英輔と共に、
速水に指定された
ホテルへ向かった。

SM専門のホテルでも、
廊下は普通だな

え、ええ……

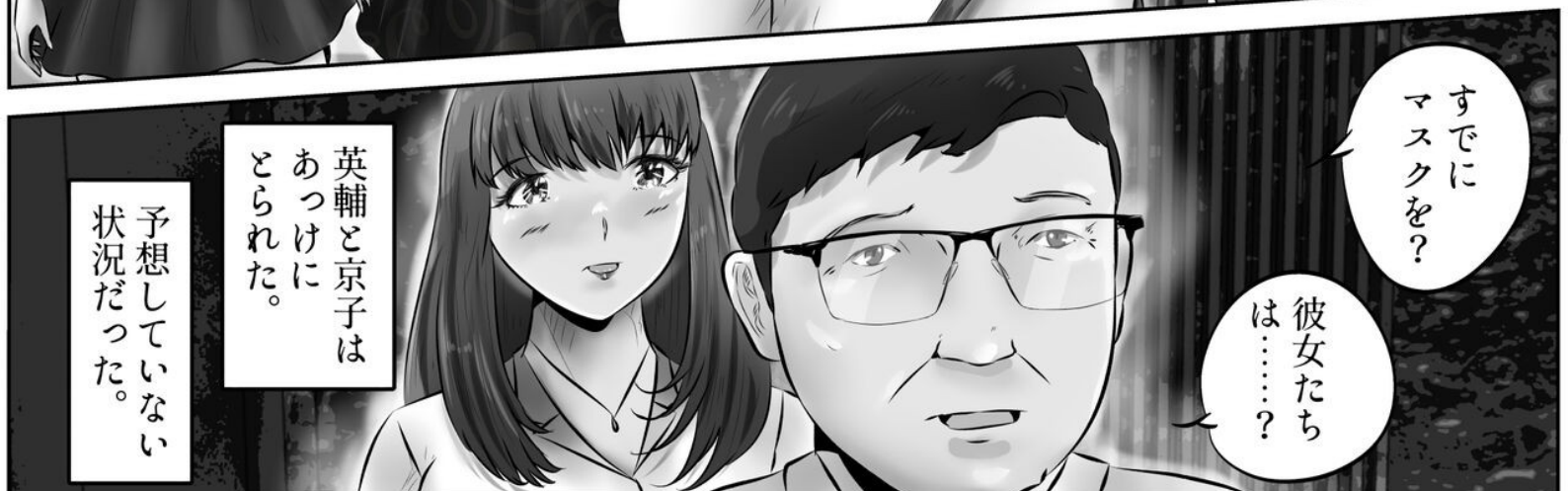




部屋には、
速水の他、
見知らぬ女性が……

はじめまして

ブーン



すでに
マスクを?

彼女たちは
……?

英輔と京子は
あつげに
とられた。

予想していなかった
状況だった。



肉ペット……

クイン



今日は黒子に
徹しますので、
すでにマスクを
させてもらって
います

はは



彼女は
桃園エロ子さん。
僕の調教プレイの
師匠です

隣は詩織。
エロ子さんの
肉ペットです



シャワーを浴びた
英輔と京子。



非日常感に
不安と期待が
入り混じっていた。

旦那様は、
こちらにどうぞ

そんな二人を、
エロ子という
女性が誘う。



しばらくは、
肉人形の奉仕穴を
柔らかくする様子を
楽しんでください



笑顔で、慣れた
感じに、非日常的な
言葉を放つ彼女。



さあ、あんたは
こっちで奉仕に
相応しい体に
調教されるのよ



エロ子は、京子に
拘束具を
つけていった。

いつの間にか、
部屋中央には
重そうな台座が
置かれていた。



生贄を捧げるような、
豪華な料理を
並べるような……

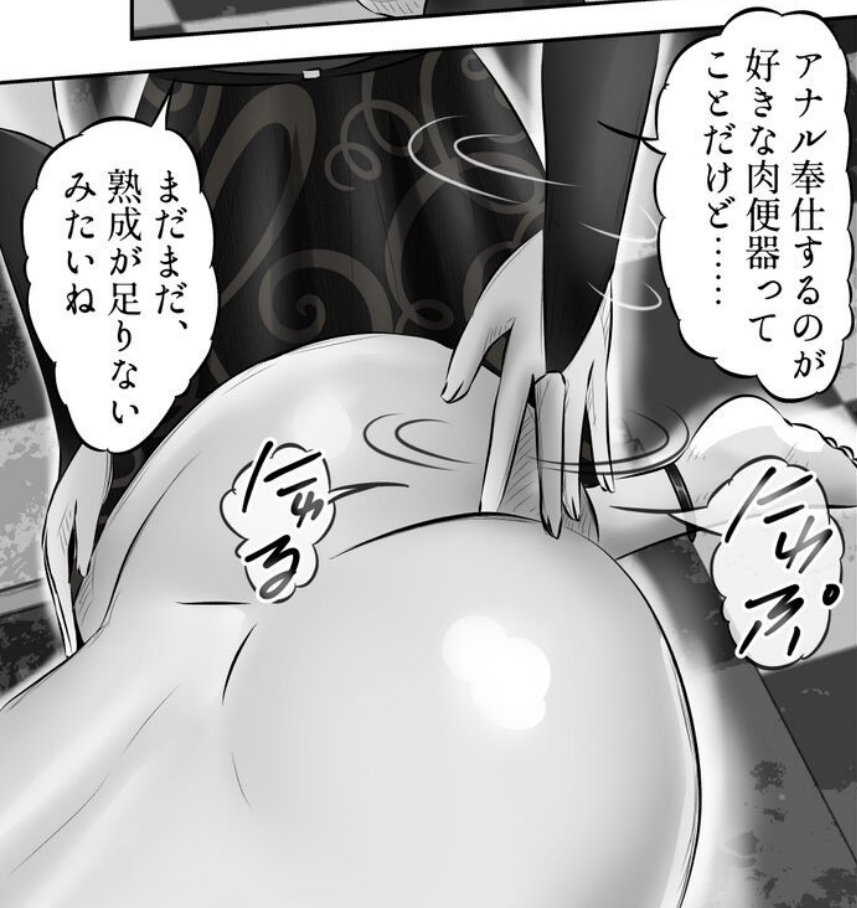
京子は台座に
固定された。

全裸で、
アナルもマンコも
露出した状態で。

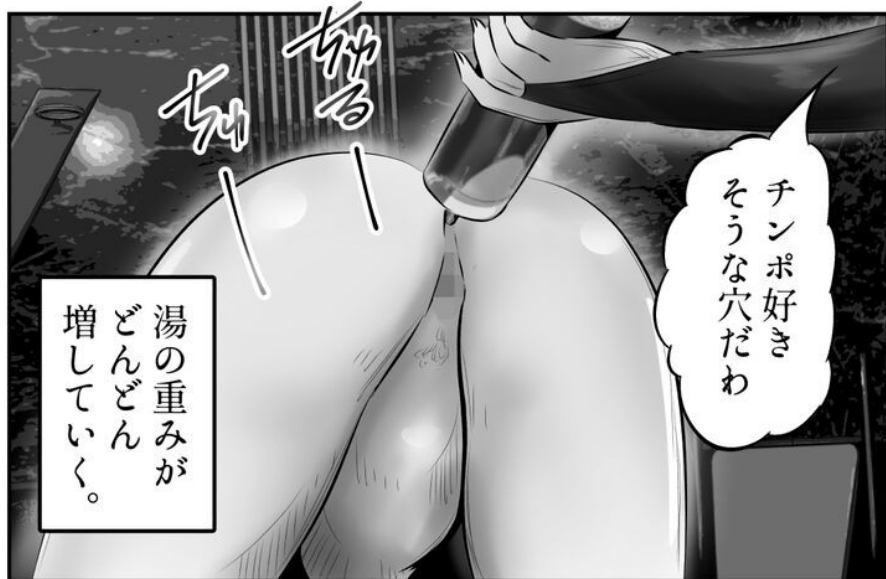
その恥ずかしい姿に、
京子はすでに性的興奮を
感じ始めていた。

アナル奉仕するのが
好きな肉便器って
ことだけど……

まだまだ、
熟成が足りない
みたいね







湯をすべて注入
すると、エロ子は
アナルプラグで
蓋をした。

しっかりと
蓋をして

おっ

おっ

いいのよ。
泣いていいの

好きなだけ
叫んでいいの

い、痛い。
出したい、
出したいです

ほら、こんなに
お腹が膨らんだ

叫んで……？

エロ子の不穏な
言葉に不安に
なる京子。

不快な重みと
痛みが京子を
苦しめる。

思いつきり、
叫んで

これから、
いっぱい
痛みを味わう
んだから

下腹部を圧迫
されると、鈍い
痛みが増した。

ああ！
痛い！
痛い！！

うあぁ

うあ

あ

耐えがたい
苦しみに脂汗が
出る京子。

そう言いながら、
乳首勃起してる
じゃない

痛い！ 痛い！
無理！ ああ！
痛い！ 痛い！
苦しい！！

しかし、どういう
わけか性的感度は
増していた。

エロ子はバラ鞭を
思いきり打ち
下ろした。

うるさい！

強烈な衝撃が
京子を襲う。

あんたは肉穴が
柔らかくなる
ことだけ、考えれば
いいの！

下腹部の断続的な
鈍い痛み、
鋭い鞭の痛み。

京子は遠慮
することなく、
泣き叫んだ。

ああ！
痛い！
痛い！
苦しい！
痛い！
無理！
あなた！
助けて！

そこには
性的快楽など
微塵もなかった。

助けを求める
京子。

さらに鞭の
鋭い痛みが
京子を襲う。

うるさくしてばー！

あんたがすることは、
助けを求める
ことじゃないの！

皮膚に熱い針を
刺されたような
刺激が京子を
苦しめた。

見てて
ください

エロ子は容赦なく、
鞭を振った。

はじける痛みにも、
京子は理性を失い、
泣き、叫んだ。

肉棒奉仕が
あんたの仕事
でしょ！



肉穴の本分、
思い出し
なさい！

ズッ

背中の中の痛みが
引くと、お腹の
鈍痛が復活した。

ほら、尻穴開放
してあげるから！

ああ
うあ

ビッ





解放された
肛門から、湯が
大量に噴出した。

尻肉は震え、
肛門はひくひくと
開閉を繰り返した。



京子にとって、
耐えがたく
恥ずかしい
状態だった。

詩織は英輔の
ペニスを咥え込んだ。

龟头を舐め、
根元まで
飲み込む。

彼女は肉棒奉仕が
生きがいなのです

好きにさせて
あげてください

はは

はは

あなた……

あんたは、肉穴を
奉仕に相応しく
鍛錬するの

旦那様のご奉仕は、
あの肉人形に
任せなさい

さあ、どんどん
肉人形として
熟成させて
いくわよ！

エロ子は京子の
緩んだアナルを愛撫
しながら、不敵な
笑みを浮かべた。

つづく

不倫人妻調教物語



杉原京子編(5)



英輔と京子

英輔と京子は結婚当初から、性的営みはそれほど濃密でも積極的でもなかった。英輔は50代になり、勃起を持続させることが難しくなっていた。まだ30代の京子を満足させることができていないことを自覚し、それを後ろめたく感じ、いつそう欲情を抑えることになっていた。そうした負い目から、京子に生活の不便は感じさせないようにしようとしていた。だが、それによって京子が刺激の少ない日々につまらないと感じるようになっていたのは、皮肉な結果だった。英輔と京子の日常は、どこか遠慮がちな、腫れ物にさわるような状態であった。普段の京子は控えめな性格で、本当の自分を見せるようなことはしないタイプの人間だった。見せることを怖いと思う部分もあった。英輔は、そんな京子と夫婦であっても、深く結びついていると感じられなかった。そして、自分も京子に対して素の自分を見せることがなくなっていた。京子がM女で、自分の情欲を隠すことなく見せてくるまでは……

京子の視点

速水さん、やはり焦ったみたいね。



でも、三人でのプレイを受け入れた。



やっぱり、英輔さんの言う通り、その方が訴えられないと思っただのかしら？

結局、ホテルに
来ちゃったけど……、
凄く大それたことを
している気がする……

SM専門のホテルでも、
廊下は普通だな

え、ええ……





はじめまして

どういこと？
速水さん、
一人じゃない……



すでに
マスクを？

彼女たち
は……？

なんだか、
怖い雰囲気
がする。

やっぱり、
間違ったこと
しているんじや
ないかしら？



肉ペット……

ハイ



今日は黒子に
徹しますので、
すでにマスクを
させてもらって
います

はい



彼女は
桃園エロ子さん。
僕の調教プレイの
師匠です

隣は詩織。
エロ子さんの
肉ペットです



……あなたが
いいなら

むっ



まあ、
いいだろう

イむ。



調教プレイなら、
お手伝いできるかと

予想外すぎる
展開で、頭が
回らない……

ふっ
ふっ



よかつたら、
マスク使って
ください

お。



旦那様に相応しい
熟成肉穴にして
差し上げます！

えっ？

ささっとシャワー
浴びて、
始めましょう！

待って！
待って！
何が始まるの!?

英輔さんまで
巻き込んで……



とんでもない
ことになった
気がする。

旦那様は、
こちらにどうぞ

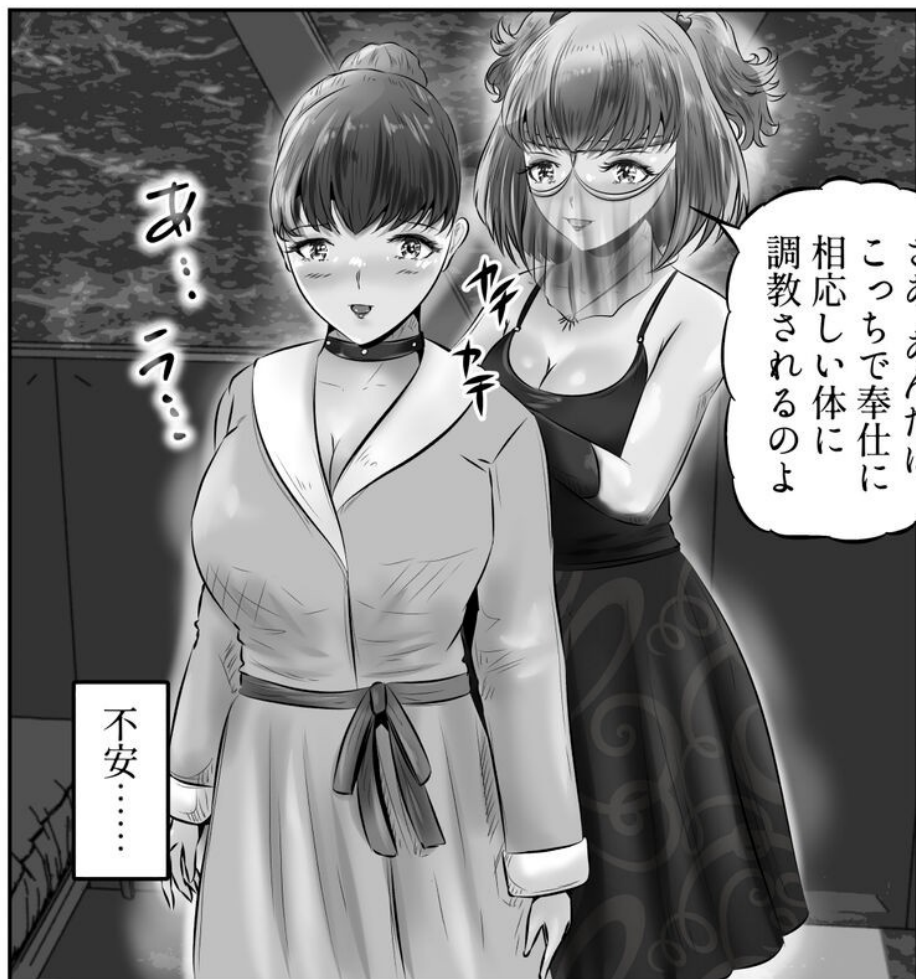
彼女は慣れている
感じがするけど。

しばらくは、
肉人形の奉仕穴を
柔らかくする様子を
楽しんでください



逃げ出したい
気持ちが強くなる。

さあ、あんたは
こっちで奉仕に
相応しい体に
調教されるのよ



不安……

でも、見慣れぬ
器具に、少しだけ
興味もある。



夫がいることで、
安心できる部分も
あるし……

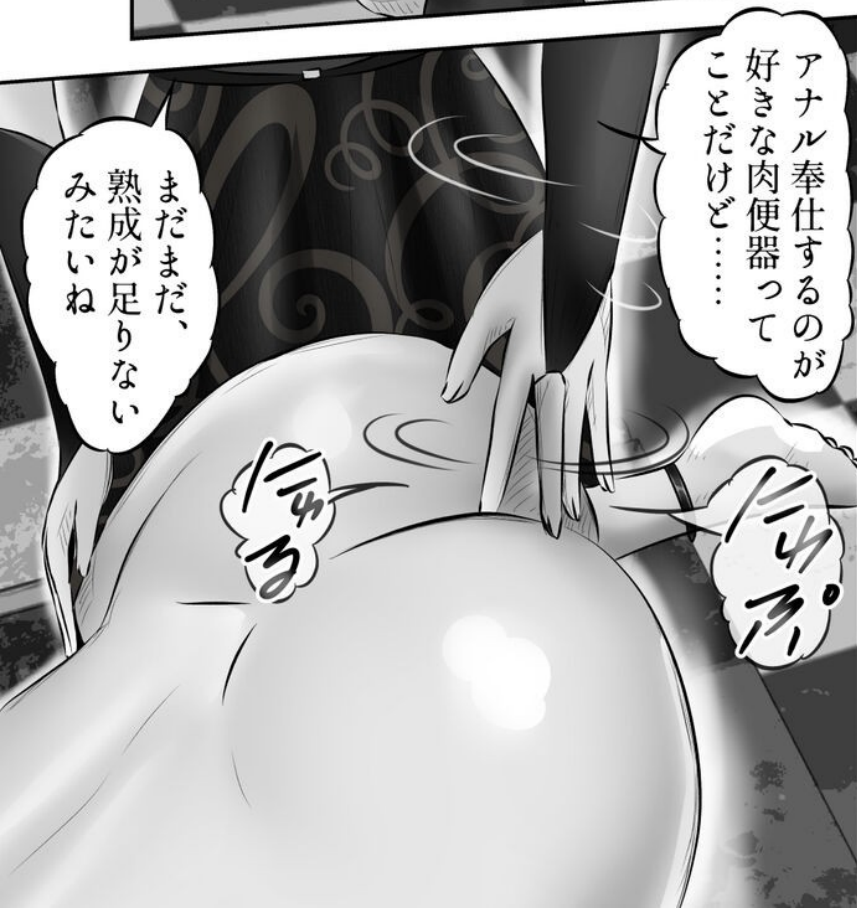
やっ！ いやっ！
こんな格好！

みんなに見られて
いるし、恥ずかしさで
死んでしまいそう！

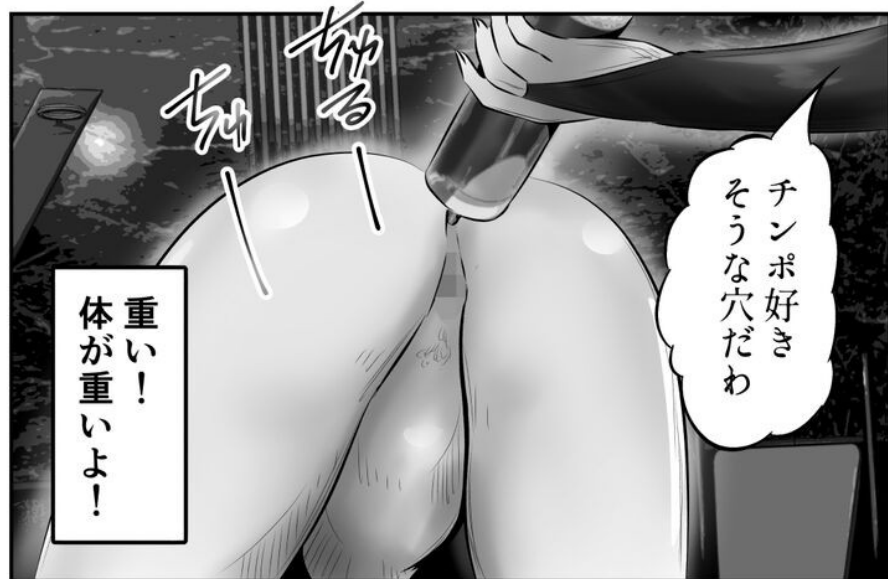
ああ、でもなぜか
感じてしまう……

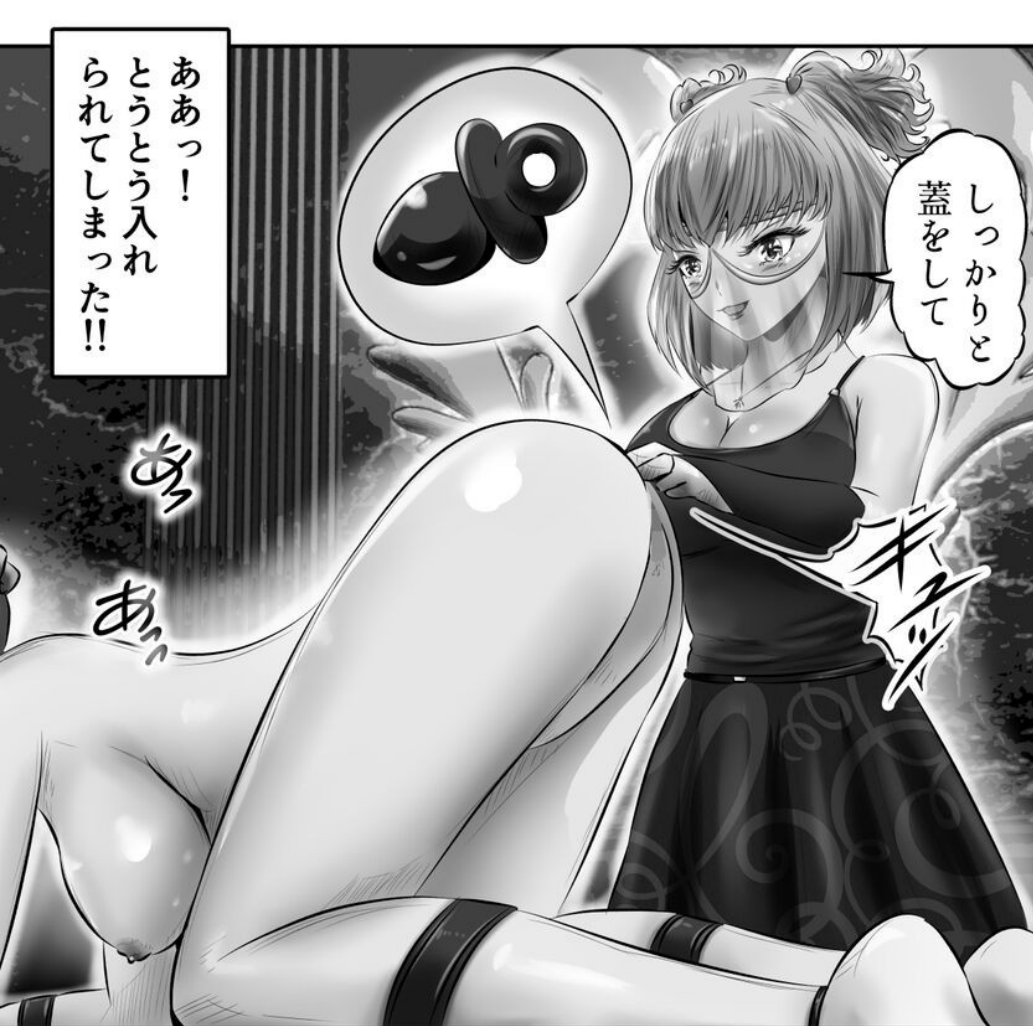
アナル奉仕するのが
好きな肉便器って
ことだけど……

まだまだ、
熟成が足りない
みたいね









思いつきり、
叫んで

これから、
いっぱい
痛みを味わう
んだから

だめ！ だめ！！
刺激しないで！
耐えられない！！

ああ！
痛い！
痛い！！

うあぁ

うあ

あ

ああ！
アナルの蓋、
抜いて！

そう言いながら、
乳首勃起してる
じゃない

痛い！ 痛い！
無理！ ああっ！
痛い！ 苦しい！！

お腹痛い！
乳首痛い！
ただの拷問だよ！！



痛い！ ああっ！
背中！ 背中が
裂けちゃう！！

うるさい！

速水さんとは
威力が違う！

あんたは肉穴が
柔らかくなる
ことだけ、考えれば
いいの！

こんなの
聞いてないよ！

もしかして、
罠にはめられた？

夫に優しく
抱かれない！

ああ！
痛い！
痛い！
苦しい！
痛い！
無理！
ああ！
あなた！
助けて！

夫に助けて
欲しい！



ああっ！痛い！
痛みしかない！

背中全体が
火傷したみたいに
熱い！！

肉棒奉仕が
あんたの仕事
でしょ！



肉穴の本分、
思い出し
なさい！

ビッ

お腹が重い……、
楽になりたい……

ほら、尻穴開放
してあげるから！

あー
あー
うー

ビッ



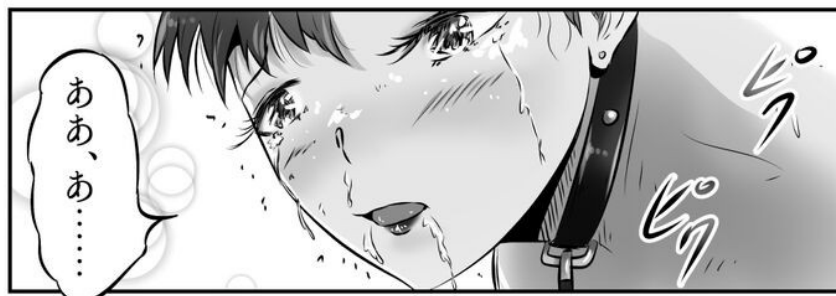


ああ！
勝手にお尻から
吹き出しちゃう！

恥ずかしい！
恥ずかしくて
死にそう！



止められない！
ああ！
恥ずかし
すぎるよお！！

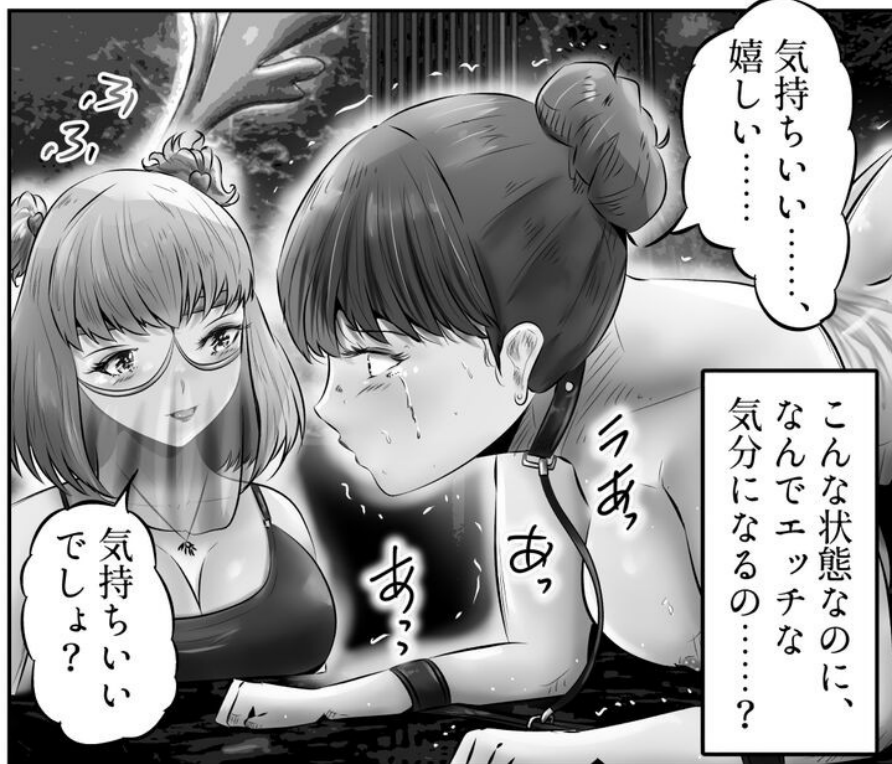


ああ、あ……



ああ、英輔さんに
嫌われちゃう！
最悪！！

いやっ！
いやいやっ！！



気持ちいい……
嬉しい……

こんな状態なのに、
なんでエッチな
気分になるの……？

うあ、

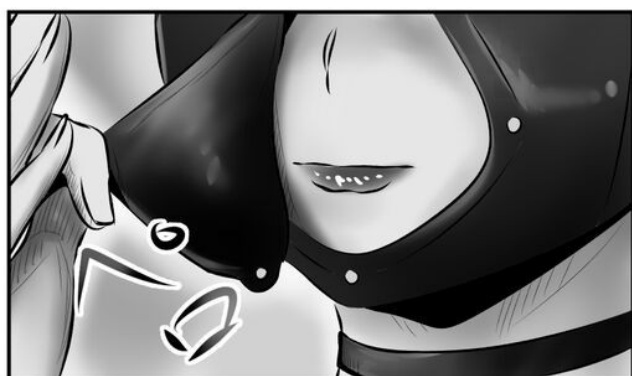
あ、

あ、

気持ちいい
でしょ？



カ
ッ



おチンチン、
大きくなってる。
興奮してくれたの
かしら？

旦那様にも
喜んで
もらえてるわよ

あ
あ
あ

う
う
う

う
う
う

英輔さんが、私の
恥ずかしい姿で
興奮してくれたなら、
嬉しい。

こんなプレイでも
感じてもらえるの
かしら？

彼女は肉棒奉仕が
生きがいなのです

好きにさせて
あげてください

はは



あなた……



旦那様のご奉仕は、
あの肉人形に
任せなさい

あんたは、肉穴を
奉仕に相応しく
鍛錬するの



さあ、どんどん
肉人形として
熟成させて
いくわよ！

あつ！ あつ！
アナルの感度が違う！
ああ！ 気持ちいい！！

つづく

